



晴天の心

立教 185 年 3 月号

大阪府 富田 林市 寿町 4-9-10

URL:www.tomiishi.net

TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 3月19日(土) 午前10時～
 婦人会例会 3月9日(水) 午前10時～

弥生 3月ひな祭りですね。
 こうして今日本では、平和な日常が続いています。それが当たり前ですが、新型コロナウイルスという目に見えないつかみ所のない病気尾をもたらす原因の元が広がりこの2年ほどの間はなんだかとても窮屈に暮らしていると感じます。ヨーロッパでは、かなりきな臭い匂いがしてきました。こんな時どちらも正義を掲げます。そうして大きな争いとなってしまいます。そこで暮らしている人たちは、つい先日までは何事もなく平和に暮らしていた日常が一夜のうちに変わってしまう。愚かで悲しいことです。心が痛みます。少しでも早く彼の地にも穏やかに日が戻ることを願うばかりです。

* おやのことば 「世界は変わらん、心変わる」

年が明けてから、雪の日や厚い雲に覆われる日が続いていましたが、今朝は美しい朝日が窓から差し込んでいます。遠くに見える山々も、近くの田畑やあぜ道も、早朝の澄んだ空気の中で金色に輝いています。

普段は物悲しい気分を誘う、冬枯れした木々や立ち枯れした草花でさえ、朝日に照らされると、まるで息を吹き返したかのように生き生きと見えるから不思議です。

新聞を取りに外へ出て、大きく深呼吸すると、朝の冷たい空気が体中に広がっていくのを感じます。何も特別な日ではないのですが、今日も元気にこの美しい世界に生かされて在ることの喜びが、自然に湧き上がってきて、思わず手を合わせました。

「一つ世界は変わらん、心変わる」


この世界の創造時から、親神様の絶えざるご守護に支えられて世界は存在し、その中で生命が育まれてきました。

昨日も今日も、そして明日も、その事実が変わりはありません。でも、喜べない出来事や体調不良などが重なってくると、感謝や喜びよりは、どうしても迷いや不足のほうに心が向いてしまいがちです。

そんなときは、もう一度目を凝らして、目の前にある世界を見つめ直しましょう。親神様のご守護に思いを馳せるとき、そこに多くの感謝と喜びの種が埋もれていることに、きっと気がつくはずですよ。(岡)

今日の
おやのことば

「世界は変わらん、心変わる」
 一つ世界は変わらん、心変わる。



おさしづ 明治21年12月12日

一枚の写真から

先日、SNS に右の写真を公開しました。これは私が高校時代のクラブ活動で毎日歌っていた「みちのこのうた」という歌集の最初のページです。

娘が本棚を整理して見つけたもので、懐かしく思い公開したのです。

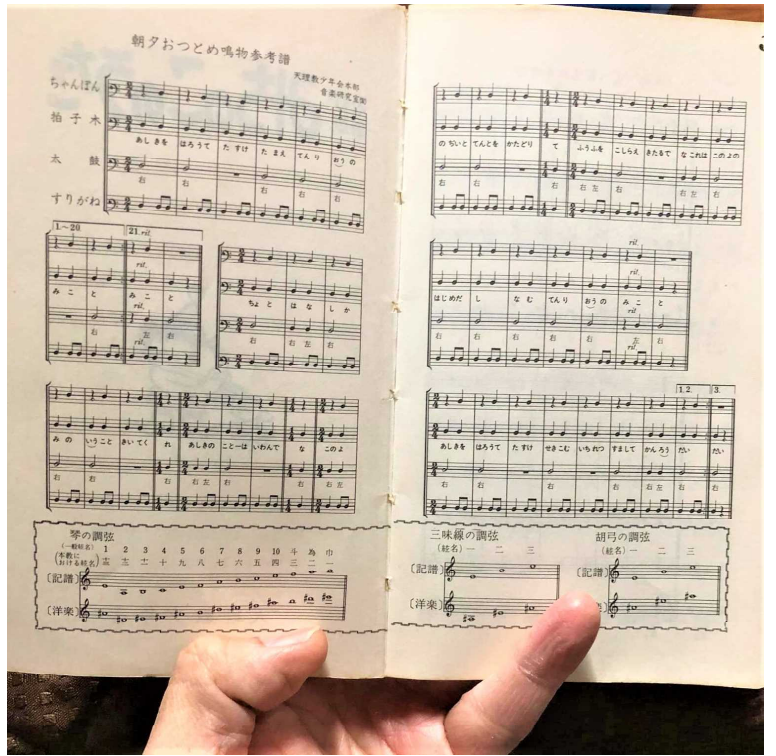
ただ、最初のページに朝夕のおつとめ鳴り物譜面があるのは全く記憶していませんでした。

何気なく公開したのですが、想像を超える反響となりました。

まず綺麗ならば譜面のコピーが見たいという人が現れたので、このほかのページも数ページ追加で公開しました。

すると、楽譜を読める人たちの間で話が転がっていく・・・

また、別の人々が、最後のページに記載されている教祖九十年祭の歌を見て、自分



42

平和へのいのり* 上原ほうし 作詞
早樫一男 作曲

1. わさ たの まわ りの みどりの こすえ にまふる
おさ な ごの うーた いーあいたた えおや
みー な の もと ため なさ かなへいー Gm G7

ぶし の ひか りが あふれ てーいる のに とし
さ と こ の まー い やす のき のくー らし お

おー みな は たは ち たえ かな い は けり し く さん
しやー おむ つ の ひ に こか え 一つ て いる の か はみー

がな あち ーは い てに ひ とう かばろ もえげー める
かち の きょう ーだ いい によ こ こ げうし ての ーれ

3 2 1

みちの兄弟よ 心しいのれ

みんなの求める ささやかな平和
親と子のまどい やすらぎのくらし
おおいつの日に かえってくるのか

ふるさとの町の 瓦礫のなかから
死者のおれは立ち 声なき怒りを
はるかな地平に ほつぽつとあげる

幼子のうたは、長いあいだたえ
ええが 山河はあれはて 人かげも見えぬ

私のまわりの 緑のこすえに
まぶしい光が あふれているのに
遠い南では 戦いはげしく

上原 ほうし 作詞

平和へのいのり

みちのこのうたメモ 親神さまのご守護で耳がきこえる、声が出せる、この喜び。

の持っている「みちのこのうた」には、記載がないということが判明して、この本の内容で話が広がる。

そして、九十年祭の歌を知らないという人が出てきて、あの歌は最高だったという話から、音源ありますよとことになり、欲しい！！というリクエストから公開すると、別の人がこの曲は3連符が難しかった。そのとき現役の鼓笛隊員だったからと述懐されたりと

1枚の写真からこれほどの話の広がりになるとは思いもよりませんでした。

1枚の写真から、音楽の譜面に関するセッション。高校性のクラブ活動を通じての思い出話。そして、教祖の年祭の歌という世代を超えた話へと広がるのに答えながら、ものの見方の幅を感じました。同じものを見たり聞いたりしても、その人が知っている知識や経験などで着眼するところがこれほど違うのかと。そして、SNSでは、世代を超えてのセッションが行われる。そこからまた新しい発見があると。

立場を変えて物事を見ることが身についたのは、この高校時代のクラブでした。

子どもたちを対象としてのゲームリーダーとなったり、それを支えるサブリーダーになったりすることで、準備の大切さとアクシデントに対する柔軟な即応性。物事を俯瞰で捉えてポイントをつかんで効率よく進めていくこと。そんな、社会で実際に必要となる能力を得ることができたんだと思うと、今更ながらありがたいことだったなと感じました。



一般に「救済」を意味する働きかけを、お道では「おたすけ」と呼んでいます。

おたすけは、たすけ一条の道といわれる「つとめ」と「さづけ」を、ようぼくが誠まことの心で実行することによって、親神様おやがみさまのご守護、教祖おやさまのお働きを頂いて成就されます。つまり、おたすけをされるのは、あくまで親神様であり、ようぼくは存命（ぞんめい）の教祖の手足となって、身

上（みじょう）・事情を抱える人に教えを伝え、心を入れ替えていただくために、ひたすら真実を尽つくし、たすかりを願い、身上者にはおさづけを取り次ぐことが、その務めと言えるでしょう。

こうして、身上を病む人が不思議なたすけに浴し、事情に苦しむ人が鮮やかなご守護を頂いて、喜びの姿を見せられても、それで善しとするのではなく、真のたすかりへと導いていくことが大切です。

中山善衛・三代真柱（しんばしら）様は、次のように仰せになっています。

「おたすけということは人をたすけることであります。人をたすけるということは、ただ病気を治すことじゃないんです。病気が治ったからというて、おたすけが済んだんじゃないんです。おさづけを取り次いでいただいて、もし病気がよくなったという結果を見たならば、私は取り次いだ人も取り次がれた人も、きっと、なるほど親神様の御守護だと心に感得（かんとく）するだろうと思います。かくなる上は、私もあの人と一緒ににをいがけ・おたすけをさせていただこう、そうして人をたすける心を持って思召（おぼしめし）に応えさせてもらおう。そういう心のところまで人を育てることが、私は本当のおたすけだと思うんです」（第35回新任教会長の集い）



てをどりまなび

教会本部では毎日、朝づとめの後に教祖おやさまの御前で、てをどりを二下りずつ参拝者全員で勤めています。これを「てをどりまなび」といいます。

それぞれの教会でも、これにならって朝夕のおつとめの後に、まなびを勤めています。

「まなび」は学び。古来は「真似まねび」で、真似ること。師匠や先輩の技を真似ることから、学習、学問といった意味に使われてきました。

お手振りも、まずは真似、慣れることです。お歌、お手振りに込められた理合いを味わいつつ勤めるのが理想ですが、まずは教会のおつとめに参拝し、先輩と共に「まなび」を勤めて、見よう見まねでもお手を振ってみることで

教祖は

「これは、理の歌や。理に合わせて踊るのやで。たゞ踊るのではない、理を振るのや」

「つとめに、手がぐにやぐにやするのは、心がぐにやぐにやして居るからや。

一つ手の振り方間違まちごても、宜敷よろしくない。

このつとめで命の切替りかえするのや。大切なつとめやで」（『稿本天理教教祖伝』）と、おつとめの理の重さを教え示されました。

* 身上みじょう 一般的に身体の病気を指す。

* 事情じじょう 生きていく上での様々な困難やトラブルを指す

立教185年

全教一斉

ひのきしんデー

提唱

90周年

Hinokishin Day

4月29日

金祝

今年の特全教一斉ひのきしんデーには、南河内支部は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会場を設けません。それぞれが、ご家族でお住まいの地域周辺や近くの教会で、ひのきしんに励ませていただきますよう。

親神様へ日頃の感謝のこころを込めて行うことすべてが、ひのきしんです。この日だけでなく、この日をきっかけにどうぞ身近で、続けて出来るひのきしんを始めてみましょう。

「ひのきしん」のあり方は、人それぞれです。

災害救助に行くことも、ひのきしん。出会った人に挨拶することも、ひのきしん。勉強することだって、ひのきしん。

「ひのきしん」とは、具体的な行動(プロジェクト)を意味している言葉ではなく、信条(イデオロギー)を指している言葉だから。

被災地支援をする、近所のゴミ拾いをする、などといったプロジェクトそのものが「ひのきしん」になるわけではなく、まず生きる喜びから生まれる感謝の心があって、その信条(イデオロギー)が結果的に行動や生活の仕方に影響を与えていくというわけですね。

ですから、「ひのきしん」はきわめて自己完結的。当事者が「ひのきしん」だと認識していれば、それは周囲の評価など関係なく、そのまま神様に「感謝の気持ち」を届けられる行為となるのです。

さあ、こころ勇んでひのきしん

報恩感謝の心で 一手一つにひのきしん

—— 家族ぐるみで参加しよう



【差出人】 〒584-0031 富田林市寿町4丁目9-10 天理教南河内支部 伏井啓之